



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2019

No. 36 (令和2年1月16日発行)

佐高 SGH ファイル

## 佐野小学校での「環境教育」出前授業

令和元年12月2日(月)、12月20日(金)に佐野小学校にて本校生8名が環境教育に関する出前授業を行いました。この環境教育は、東京農工大学、佐野小学校、佐野市環境ネットワーク会議と連携し実施されたもので、生徒たちは7月30日(火)に東京農工大准教授の佐藤敬一先生による環境教育プログラム「Project Learning Tree (プロジェクト・ラーニング・ツリー)」を受講した後、それをもとに佐野小学校4年生の総合的な時間に実際に授業を行いました。予定では11月中に出前授業を行う予定でしたが、台風19号の影響により12月に延期されました。初めてのことで、指導案作りや模擬授業でもかなり苦労したようですが、その分得られたものも大きかったようです。



LTのweb siteより (<http://eric-net.org/plt02.html>)

### 1.2 Project Learning Tree (プロジェクト・ラーニング・ツリー) の背景

1.2.1 PLTはアメリカ合衆国で最も普及している環境教育プログラムです。アメリカ森林財団(AFF)による事務局運営のもと、各州にコーディネーターと運営委員会がおかれ、指導者の養成にあたっています。AFFは個人や財団、林業関係者からの助成金によって成り立つ慈善教育財団です。この他、アメリカ林務官組合、全米州林務官組合、全米林業学校・大学協会、U.S.D.A森林事業などからも支援を受けています。

1.2.2 海外でもカナダ、スウェーデン、フィンランド、メキシコ、そして日本などで30万人以上の教育関係者と1200万人以上の子どもたちがプログラムに参加しています。1977年に初めて現場で実践が試みられて以来、改定を重ねてきました。調査や研究結果からも、PLTが大変効果的な方法であることが確かめられています。参加者も、このカリキュラムが広く活用されていくだろうと期待の声を寄せています。

### 1 計画

| 準備日時 場所：選択教室3                                | 当日(佐野小学校)   |
|--|---|
| ①10/31(木) 16:00-16:20 26班・27班<br>(次の日の連絡)    | ①11/1(金) 集合 8:00 正面玄関前<br>8:25-12:30 26班・27班(学習のサポート)                 |
| ②11/18(月) 16:00-18:30 26班・27班<br>(授業準備、模擬授業) | ②③<br>12/2(月) 集合 8:15 正面玄関前<br>8:40-12:50 27班(佐高生による授業)<br>26班は授業サポート |
| ③11/30(土) 9:30-12:30 26班・27班<br>(授業準備、模擬授業)  |   |
| ④12/16(月) 16:00-18:30 26・27班<br>(授業準備、模擬授業)  | ④12/20(金) 集合 8:15 正面玄関前<br>8:40-12:50 26班(佐高生による授業)<br>27班は授業サポート     |

## 佐野小での出前授業の様子

出前授業 27班(4名)

1年1組 兵藤みなみさん、1年2組 長谷川愛彩さん、1年4組 松原唯衣さん、渡辺流空さん

自分たちで考案したアクティビティ「猛獣狩りに行こうよ」、「危険な場所はどこ？」等を実施しました。楽しみながら学ぶことで環境問題に関心を持たせ、どう関わったらよいかを伝えていました。



準備が大変で思っていたよりも苦戦することがありました。自分が説明するときには児童が盛り上がっていて声が届かず、不安なことがありましたが、話を聞いてもらうときには、手でパンパンとたたいて、そこから静かにしてもらおうという工夫をしました。その点について農工大の方が「盛り上がっているということは自分たちの授業に興味を持っているということ」とおっしゃっていました。また、「授業は児童と一緒に作るもの」とおっしゃっていて、今までにない考え方、感じ方を身につけることができました。

1年1組 兵藤 みなみ

今回の授業では、主に2つのことを学びました。1つ目は「児童が騒いでいる」ということのメリット・デメリットです。私はデメリットとしてしかとらえていなかったのですが、農工大の先生がメリットとしてとらえることもできるとおっしゃっていて勉強になりました。騒がしいのではなく、反応があるととらえることができるということを知りました。2つ目は遊びと学びのバランスです。楽しくてアクティブな授業は生徒を引きつけますが、何も学ばせることはできません。逆に座学を通して重要なことを教えても記憶には残りません。この2つのメリハリとバランスを上手に組み合わせることでより良い授業になることが分かりました。

1年2組 長谷川 愛彩

出前授業 26班(4名)

1年1組 大川航世さん、木村真歩さん、1年2組 阿部巴弦さん、1年3組 山本朋果さん

「鳥と虫」、「間伐ゲーム」を授業で実施し、児童はいきいきと楽しそうに授業を受けていました。



最初はすごく緊張しました。うまく説明できるか、児童に伝わるのか本当にできるのかとても心配でした。実際に授業をすると説明が不十分だったり、ゲームの説明が児童にうまく伝わりませんでした。1組で授業をした時は反省点しか出ず、ますます不安になりました。1組で授業が終わった後の反省会で先生方にアドバイスをいただき、2組で授業を行った時は、うまく説明できなかった所がうまく説明できました。とても貴重な体験をさせていただきました。

1年3組 山本 朋果

今回は、自分たちで実際に授業をして先生の大変さを学びました。教える側と教えられる側で授業に対する考え方を変えなければならないと学びました。初めて小学生に授業をしましたが、リアクションをもらったり、時間を考えたり、並ばせたりと色々なところを気にかける大切さを学びました。1回目はあまり上手く進められませんでしたでしたが、2回目は改善することができて良かったです。

1年1組 大川 航世